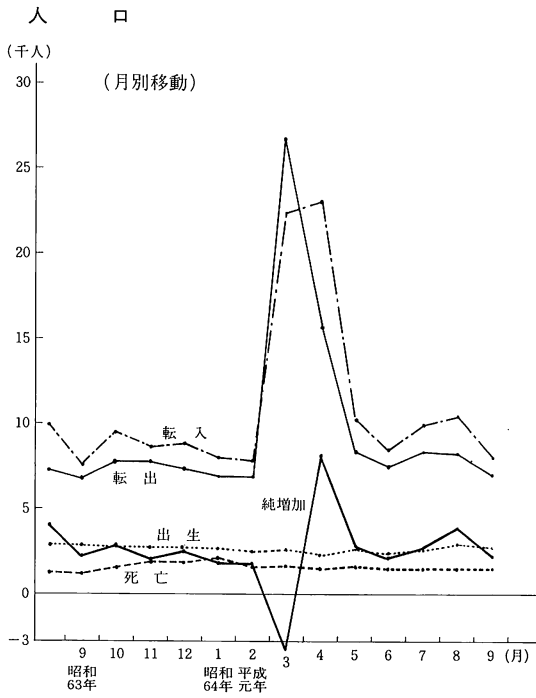
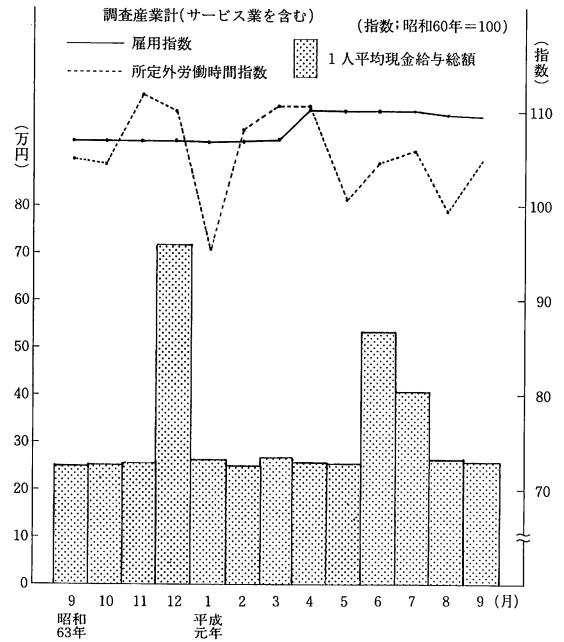


● 今月の主な動き

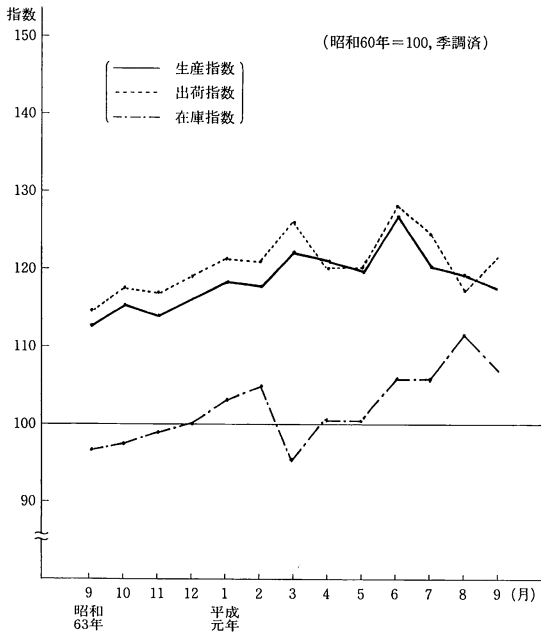
今月の主な動き



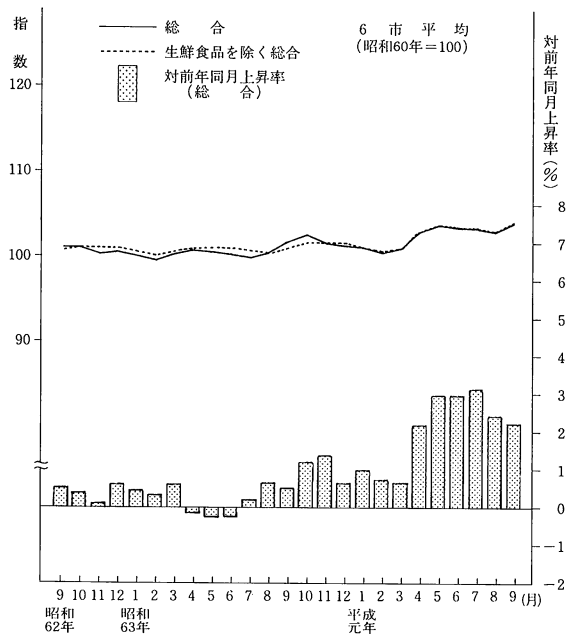
賃金・労働時間・雇用



鉱工業指数(生産・出荷・在庫)



消費者物価指数



主な動きのあらまし……………企画部統計課

■人口(10月1日)

本県の人口は、9月中に2,008人増加し、10月1日現在で2,826,024人(男1,408,914人、女1,417,110人)となった。

内訳は、自然動態で1,126人(出生2,489人、死亡1,363人)増加し、社会動態で882人(転入7,699人、転出6,817人)増加した。対前年同月と比べると28,328人(1.01%)の

増加である。

市町村別では、増加が14市45町村、減少が6市22町村、増減なしが1村である。

世帯数についても9月中に1,022世帯増加し、814,526世帯となった。

■賃金・労働時間・雇用(9月)

1. 平均賃金の推移

9月の現金給与総額は、調査産業計で259,020円、前年同月比3.3%増(前月は6.5%増)であった。このうちきまって支給する給与は257,408円、前年同月比3.3%増(前月は2.1%増)であった。また、きまって支給する給与のうち所定内給与は227,505円で、前年同月比3.2%増(前月は1.9%増)であり、超過労働給与は29,903円で、前年同月比4.0%増であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は前年同月比1.2%増であった。

2. 労働時間

9月の総実労働時間は、調査産業計で180.2時間、前年同月比0.4%減(前月は3.2%減)であった。このうち所定内労働時間は161.5時間で、前年同月比0.4%減(前月は3.5%減)であった。また、所定外労働時間は、調査産業計で18.7時間、前年同月比はもちあい(前月は0.6%増)となっている。

3. 雇用の動き

9月の常用雇用の動きと前年同月比によってみると2.1%増(前月は2.7%増)であった。

■鉱工業指数<生産・出荷・在庫>(9月分)

本県における平成元年9月の“鉱工業指数”(昭和60年=100)は、季節調整済指数で、生産が117.7、出荷が121.8、在庫が106.9で、前月比は、生産が△1.8%の低下、出荷が3.4%の上昇、在庫が△4.1%の低下であった。前年同月比(原指数)は、生産が4.3%の上昇、出荷が6.2%の上昇、在庫が10.9%の上昇であった。

業種別に前月比をみると生産では、精密機械工業、石油・石炭製品工業、化学工業等が上昇し、輸送機械工業、金属製品工業、鉱業等が低下した。出荷では、鉱業、精密機械

工業、一般機械工業等が上昇し、輸送機械工業、金属製品工業、電気機械工業等が低下した。在庫では、輸送機械工業、電気機械工業、その他工業等が上昇し、鉱業、一般機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業等が低下した。

特殊分類別にみると生産では、耐久消費財、その他用生産財等が上昇し、資本財、建設財が低下した。出荷では、耐久消費財、その他用生産財等が上昇し、資本財、建設財等が低下した。在庫では、非耐久消費財、建設財が上昇し、資本財、その他用生産財等が低下した。

■消費者物価指数(9月)

平成元年9月の茨城県消費者物価指数(6市平均)は、総合で104.0(昭和60年=100)となり、前月比1.1%の上昇、前年同月比2.4%の上昇となった。

今月上がった主な項目……シャツ・下着12.3%、野菜・海藻9.2%、衣料8.6%、乳卵類5.3%

今月下がった主な項目……果物△2.4%、魚介類△2.3%
生鮮食品を除く総合は103.9となり、前月比0.9%の上昇、前年同月比2.9%の上昇となった。

費目別指数

(昭和60年=100)

区 分	指数	上昇率(%)		区 分	指数	上昇率(%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総合	104.0	1.1	2.4	保健医療	105.9	0.1	2.7
食料	103.2	1.0	1.4	交通通信	101.9	0.0	2.0
住居	112.1	0.2	4.0	教育	116.7	0.0	3.1
光熱・水道	87.8	0.0	△0.1	教養娯楽	106.5	△0.3	4.8
家具・家事用品	100.2	0.5	1.4	諸雑費	104.6	0.1	1.5
被服及び履物	108.2	7.6	3.7	生鮮食品を除く総合	103.9	0.9	2.9